

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4570200917-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旬の食材を取り入れた馴染みのある、家庭的な味の献立になっている為、利用者様に「美味しい！」と好評を得ており、完食率も高い。また、職員も同じ物を同じ時間に、同じテーブルを囲んで一緒に食す為、和やかな雰囲気の中での食事時間を持つ事ができている。職員間で冗談を言い合ったり、笑い合う姿も多く見られ、事業所内を明るく温かな雰囲気に保つ事で、利用者様の安心感へ繋げられる様努めている。医療機関が併設している為、利用者様の体調不良時や緊急時には、適切な医療が受けられ安心して生活を送る事ができる。毎日レクリエーションの時間も設けており、慣れ親しんだ歌を歌ったり、手踊りをしたり、立ち上がって踊ったりと利用者様がそれぞれ、可能な形で参加しており、楽しみながら機能維持へ繋げ、出来る事は自分で行ってもらいながら、長期的に自立した生活が送れる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体の医療機関の敷地内にホームはあり、ほとんどの利用者がかかりつけ医としている為、情報共有が図れ心身の状態を管理している。利用者様の身体状況を考慮し敷地内を散歩するなど少しでも外の空気に触れるよう努めている。食事は献立、買い物から調理まで職員が行っており、利用者や職員がテーブルを囲んで家庭的な雰囲気の中で食事を楽めるよう努めている。利用者様に寄り添い真摯にケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者への思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念を食堂に掲げ、日々その実践に取り組んでいます		理念を定め掲示しているが定期的な見直しや職員全員が理念を共有・理解するまでにはなっていない。	利用者の状態に沿った理念の見直しや理念を職員全員で共有し実践する為の取組に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に、とまではいかないが、自治公民館の祭りやふれあい祭(文化祭)に参加したり、神社の祭りに灯籠を出展し、利用者の方が地域とのつながりを持ちながら生活出来るよう努めています。		地域の文化祭へ出品したり祭りに灯籠を奉納したり、近所の交番や会社・事務所など定期的に挨拶に行きホームを紹介するなど少しでも地域との付き合いが出来るように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議に参加される民生委員、公民館長、ご家族の皆さんと一緒に認知症のケアについて話したり、又ボランティアの方に訪問して頂き認知症の方と触れあう機会を持ってもらう事で認知症への理解を少しでも深めてもらえるよう努めています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動、その時期に応じた議題(熱中症対策やや感染症対策など)を取り上げ参加者で勉強し、意見を出し合い、サービスの向上に努めています		ホームの活動報告や行事のお知らせなど意見交換を行っている。出された意見を検討し地区の消防団と連絡・連携を図るよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で参加される市の担当の方よりアドバイスを頂き、ケアサービスの向上につながるよう努めています		運営推進会議に出席する市の担当者とは顔なじみの関係であり、些細な事でも尋ねられるような協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止等の研修に参加しており研修に参加した職員が研修報告を行い、全職員に周知するようにしています		マニュアルの整備に加え外部研修への参加や復命での勉強会の実施など身体拘束の理解に努めている。さらに言葉による拘束の弊害も理解に努めケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で利用者の方に対する、言葉使いや食事、トイレなどのケアについて話し合いの場を設けホーム内での虐待防止に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を急遽必要とする利用者の方がいないので、学習の機会を設けていない。勉強する機会を設けたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に十分に説明を行い、疑問点などある場合はその都度説明し理解して頂く。改定等は文章にて説明し同意をもらい理解して頂いている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者を置いており、担当者は苦情処理の研修に参加しています。	運営推進会議での家族意見の聴取や面会時に職員が気軽な会話をして、言いやすい雰囲気作りに努め意見の把握に取り組んでいる。意見や提案は職員で検討し実践するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者(運営者)が常に職員会議に参加しているので、意見や要望が出しやすく、その場で検討出来る事は、柔軟に対応しています	管理者は、職員からの意見や提案が言いやすい雰囲気作りに努めている。実際、提案に基づき浴室の手すりを増設置するなどケアに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所は常勤職員、非常勤職員、シルバーさんを十分に配置し、職員が余裕を持って働けるよう職場環境の整備に努めています			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップ出来るよう、外部の研修の機会もあり、年6回の職場内研修も実施しています			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名刺交換会やグループホーム協議会の研修会に参加し意見交換や情報交換を行っています			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネより以前の情報収集を行い、スタッフとも連携をとり、安心して生活出来る様努めています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、家族の面会時などに情報交換が出来る様話し掛けていき、スタッフに気軽に要望など伝えやすいように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望と御家族の希望を会話や話し合いの中から見つけ出し希望に沿えるか判断してご本人やご家族に伝えていきます			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活に慣れた頃に、昔話や自宅での生活などを聞き出し、ご本人が出来る事をお願いし、スタッフや他の利用者と一緒に過ごしています			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご本人の現状を伝え、ご本人の希望や今後のケアを伝えていきます			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会時は居室やホールで過ごして頂き、ご本人が思い出せない時等スタッフが間に入り説明しご本人に快く過ごして頂ける様努めています	利用料は家族持参が基本で毎月、ほぼ利用者全員に家族の面会が定期的に継続出来ている。馴染みの美容室に依頼し訪問散髪してもらったり、墓参りに連れていくなど関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく居室だけではなく、ホールにて他の利用者と一緒に過ごす時間を増やし、日常会話などスタッフも入り良いかわり出来る様努めている			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなられた後でも時々ご家族が遊びの来られるので、生前の利用者の話をしたりしています			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からご本人の希望やご家族が面会に来られた時等聞き出し、なるべく希望に沿った生活が送れるよ努めている	本人や家族からの聞き取りや、日々の利用者の状態・言動・表情を汲み取り、ケース記録に詳細に記録し、思いや意向の把握に努めている。ケース記録の内容により介護計画に反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中で聞いたりご家族から情報を聞くなどしご本人が暮らしやすいように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りに毎日目を通しスタッフが利用者の日々の変化に気づき適切な介護が出来る様努めています			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で話し合いを行っており、その中で具体的な意見を出し合いご本人が良い生活が出来の様努めています	担当職員の評価や計画作成者による3ヶ月に1回のモニタリング、本人や家族の意見や希望を考慮し介護計画を作成している。定期的な見直し及び状態変化時は臨機に現状に即した計画の変更を行っている。	担当者会議への家族の出席を促し、本人・家族とホーム間の、介護目標やサービス内容(ケア等)での認識・情報共有が更に進む事に期待する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を行っているが、申し送りやその都度スタッフと情報交換をしながら見直しなどを行っています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族が要望や意見を気軽に言える環境を作っています			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としてウクレレ演奏会やボランティア活動を利用しています			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疾患によって、いままでのかかりつけ医を選択される場合と当ホームの併設する医療機関を希望される場合がある。利用者の方やご家族の希望に沿った医療が受けられるよう支援しています	かかりつけ医の選択は自由である。協力医療機関へは職員が付添い受診を行い、日頃の状態など詳細に伝えている。家族の付き添いで受診の場合は情報書を作成し医療機関へ提供する等、適切な医療が受けられるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関が併設しているため随時報告、相談でき、利用者の方が適切な医療看護が受けられるよう支援しています			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院した場合、ご家族から利用者の方の病状や心身の状態、回復の度合い等の情報を得ています。退院時にADLや薬の情報を病院からもらっています			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として看とりケアは行わないとしているが、ご家族やご本人の希望がある場合、かつ積極的治療を望まない場合には看とりケアを行う事もあります	看取りは行わない方針であったが本人や家族の希望などでホームでの看取りを行っている。現状に即した指針の作成や家族などへの説明、同意を得る事が出来ておらず方針の共有が出来ていない。	重度化や看取りの方針を定めて、入居時やその他の機会に本人や家族への説明及び同意を得るような取り組みに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、利用者急変マニュアルがあるので目を通すようになっています			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2カ月に1回自主避難訓練を実施しています	水や食料の備蓄もあり、定期的に避難訓練を実施し今回は運営推進会議参加者の訓練参加もあった。非常時の協力を家族に依頼すると共に地区の消防団との連絡も行い地域との協力関係も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いやトイレ、入浴、更衣など全ての介護においてプライバシーや自尊心に配慮したケアを心掛けています		言葉かけに留意し馴れ馴れしい言葉にならないよう指導している。排せつなどのケア時は他の人から見えないよう工夫したり訪室時には必ず声掛けを行うよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、利用者様の思いや希望に沿えるように努めています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は体操やレクリエーションに参加して頂き、午後からはテレビを見たり、部屋でゆっくり過ごされたり、廊下を歩行訓練されたりと、自由に過ごされています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室出張でカット実施してる服はご本人に確認して好みの物を準備してる			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と同じテーブルを囲み 和やかな雰囲気の中で食事が楽しめます。利用者の方に合わせて食べやすい形で提供し安全に食事が出来るよう支援しています。		献立から食材の買物、調理も職員が行い利用者も下処理や台拭きなど手伝う事もある。利用者と職員と一緒にテーブルを囲んで会話をしながら食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量をチェックを行い摂取量の確認を行っています。水分はお茶だけでなくジュースや牛乳、スポーツ飲料水等準備し好みの物を飲んで頂くようにしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行、夕食後は入れ歯洗浄剤を使用し口腔内が清潔に保てる様に支援しています			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方にも決まった時間帯に声かけを行い誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。		排せつチェック表(尿量もチェック)を活用して日中トイレ誘導を行っている。取組によりリハビリパンツから布パンツ・尿取パットへ改善した利用者もあり、自立に向けた支援に取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1回牛乳を適量飲んでいただく、一日の水分量の確保、適度な運動を取り入れるなど、便秘予防につとめている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に2日に1回のサイクルで入浴を実施している。その日の健康状態などで入浴日が変更になる場合もあるが、清潔保持のため臨機応変に対応している。		1号館は各居室に浴室があり2号館は共用の浴室で原則2日に1回は入浴を行うが必要な場合は随時入浴を行っている。入浴が楽しめるように入浴剤を個別に使用したり季節湯を行うなど入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うため、寝不足にならない程度の範囲内で、利用者が安心して休息していただけるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個別ファイルに薬の説明書を保管し、スタッフが常に確認できるようにしている。変更あるごとに記録、申し送りをおこなうことですべてのスタッフとの情報共有ができるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や家族への聞き取りなどを基に、得意なことや好きなことをなるべくしていただくように支援している。歌や踊りが好きな方が多いため、レクリエーションの中に歌を取り入れるようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期ではあるが、晴天の日は施設内の敷地でおやつを召し上がっていただいたり、季節のイベント時には外食を実施する機会を設けている。		ホームの敷地内を散歩しゆっくりと庭の草花を觀賞したり、ドライブを兼ねて花見に出かけたり、家族の支援で外食や散髪、墓参りに行かれる利用者もいる。利用者の心身の状態に注意しながら外出の機会作りを努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在すべての方のご家族と相談の上でこちらで金銭管理を行っている。本人やご家族に確認した上で日用品や衣類など必要なものを購入し出納簿に記入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力希望があれば電話、手紙などをいつでもできるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節やイベントごとに掲示物を利用者と一緒に手作りするようにし、ものづくりの楽しさや季節を感じていただけるよう配慮している。廊下にはこれまで作成した掲示物を展示し、自室の外でも楽しんで過ごせるようにしている。	共用部分の採光や温度などに気を配り不快な刺激にならないように努めている。季節の飾りやソファの配置、配席に配慮したりして利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には何箇所かベンチやソファを設置、食堂にもソファを置くことで利用者が自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していたものや愛着のあるもの、使い慣れた家具や道具を持ってきていただき、心地良い空間となるように工夫している。	仏壇やたんす、テーブルや椅子、人形や写真など自由に持ち込まれて利用者それぞれに特徴のある居室となっている。馴染みの物に囲まれて居心地よく過ごせるように配慮している。ベッド横に滑り止めマットが設置され転倒などリスク低減にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札、トイレの表示など大きく見やすく表示している。			